

令和7年度第1回東京高輪病院地域協議会 議事要録

1. 日 時 令和7年9月25日(木) 16:00~16:40
2. 場 所 東京高輪病院4階会議室
3. 出席者 地域協議会委員 23名出席(全26名中)
欠席者 白石(東京都港区保健福祉支援部高齢者支援課長)
森田(東京都港区高輪地区高齢者相談センター保健師)
小糸(東京都港区高輪南町町会長)

(1) 開催挨拶 白土副院長

協議会の目的としては、地域医療をしっかりと機能させていくこと。病院の役割としては、近隣の方々に安心して医療が提供できるようにする必要がある。医療を適切かつスピーディーに提供するためにも近隣の医療機関、医師会、行政の方々の連携が必要な重要な役割になる。当病院の情報提供を説明しご意見等々頂けたらと思いますので本日はよろしく願います。

(2) 委員自己紹介：各委員より挨拶

(3) 議題

① 地域包括ケア病棟活動状況について

2024年3月~2025年8月までの病床稼働率と直接入院の受け入れ状況です。

病床稼働率は2024年を比較するとかなり低い状態であり、60~70%台で推移している。

8月の時点では、稼働が上がり90%台となっている。

直接入院の内訳としては、腰椎圧迫骨折、急性期病院からの入院、眼科・歯科からの手術が多く、新規のレスパイトも増えている。しかしそれに伴い金銭的に不安がある方、ケアの拒否が続く患者もおり、地域包括ケア病棟の入院期限でもある60日間縛りもあり退院先の調整が困難な事例もあった。超高齢社会を迎え背景が複雑化していることや老々介護でキーパーソンが定まらないことも原因の一つである。私たちはこのような環境にいる方々にも利用できる地域包括ケア病棟でありたいと思い引き続き地域のみなさま、関係各所と連携していく。また、認知面低下が認められる患者様は介護者の急な体調不良で緊急入院となった場合、患者様やご家族様とある程度の関係性を持たないと受入側が安心して安全に受入することがpp困難なこともある。当院で初めてレスパイト入院する方には1泊2日、2泊3日の短い期間でのご利用をお願いしたい。また、認知症の患者様に関しては、当院に認知症認定看護師がいるためケアの部分でお困りの方がおりましたらご相談ください。

② 認知症サポートチーム報告について

昨年度から行っている認知症患者対象の院内デイケアを継続的に行っている。芸術療法は患者様にとって楽しく参加している。参加人数は通常3~4名、時には7~8名参加することもある。今後の活動として、認知症マップを編む会を院内で開催したい。認知症患者のケアに使うものであり、職員、家族に周知していきたいと思う。いずれは高輪地区で協力をいただき地区全体でボランティア活動をしていきたい。認知症サポートチームは身体拘束最小化の活動をしており、5年間の身体拘束は順調に減っている。2020~2022年度は離床センサー等を取り入れている数字である。2023~2024年度に関してはセンサー類を含まない数字である。数は減少しているため活動は活かされている。

③ 救急受け入れ状況について

令和6年度の救急受け入れについては250~300件で推移している。令和7年1・2月は350件を超えた。令和7年度は200件前後で減少傾向にある。

来院の割合については救急車と救急車以外では半々である。減少傾向にある月に関しては、他の医療機関の受け入れ態勢の強化をしている話も聞き、競争が激化していること。当院も地域で受け入れ体制を整えつつ患者様が困ったときは積極的に受け入れる。

時間外入院患者数の推移については各月50～60件程度であり、7～8割は救急車で来院している。コロナが終息した後も傾向が変わらない状況である。救急車で来院した患者のうち42%が入院している。全国平均が45%と言われており当院も同じ傾向である。

熱中症患者数の状況は6～7割が男性である。年齢別では昨年度は20歳台、今年度は50歳台が多い。それ以外の年代は大幅な差がない。特に今年については、品川駅、高輪ゲートウェイ駅付近での建設現場で働いている方の搬送来院が多かった。

④ 診療連携の状況について

連携協定7病院から当院への転院相談は退院調整目的を主とした地域包括ケア病棟への依頼が多かった傾向にある。8月末までの相談件数は急性期35件に対し包括は63件であり、そのうち地域包括ケア病棟の入院割合は34%だった。地域包括ケア病棟への相談が多い傾向がある病院は、虎ノ門、日赤、済生会、NTTであり、急性期では聖路加、昭和であり内訳も大きく変わりはない。慈恵はいままで急性期が多かったが、今期は地域包括ケア病棟への相談が多かった。全体として、済生会、昭和以外は年々減少している。上半期に当院から転院をお願いした病院は、依頼する診療科が当院に一時的に不在していた呼吸器内科、当院に無い診療科が多かった。その他患者様が希望するかかりつけ医も含まれている。転院先は、済生会、NTT関東病院が多い傾向にあった。どの病院も迅速に対応してくれるため、いままでの関係性を強く感じている。今後も連携病院からのご相談に応じていけるよう迅速かつ積極的な調整に努めていく。病診連携については、定期的な訪問活動とともに今年度はGWキャンペーンを行った。地域の在宅介護者の休養目的としたレスパイト入院がキャンペーンを通して広く広く知れ渡るように目的として行った。4月25日～5月12日の期間内に包括病棟に入院している方を対象にアメニティセットや施設利用料を無料にするキャンペーンを行った。結果、キャンペーンを知ってのご利用は7名だった。これからも継続的に訪問活動を行い、日頃の電話対応を丁寧に行うことでスムーズな受け入れ調整を図っていき各病院の連携を強化していきたい。

⑤ 訪問看護ステーションについて

令和1年～6年までの推移では令和2年は2,000件程度だったが、徐々に右肩上がりです訪問看護の需要があることから令和6年には3,510件だった。また、リハビリ件数も増加している。令和7年度の利用者数は50～60名、新規契約数は2～5件であることから件数が増加している。介護保険だけでなく医療保険の増加もあり、自宅での看取りも増加している。8月の男女比は女性69%、年代別では80台が多い。

⑥ 市民公開講座について

専門医師等の健康維持を役立つ医療情報をわかりやすく説明するため市民公開講座を年間を通じて開催している。ミニ講座と通常講座の2パターンがある。ミニ講座は毎月1回平日昼に会計待ちの患者様に実施している。通常講座は土曜日午後1時間程度待合ロビーを開放して実施している。昨年クリスマスのイベントとして頌栄女子学園の生徒による癒しのコンサートを実施した。今年も12月にコンサートを実施するため広報していく。

⑦ みなさまの声について

院内の各所にご意見箱設置しており、病院に対してご意見を頂いている。各月10件ぐらいあり、「みなさまの声をお聞かせください」、職員のモチベーションを上げるための「おもてなしカード」の2種類がある。ご意見に対する回答を売店前に掲示している。

当院は白金猿町地区であり広報等を掲示している。今年の4月～高輪南町地区に掲示、昨日西町自治会に承認を得て広報活動をしている。

⑧ 診療科の体制について

8月～呼吸器内科1名赴任したため、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、呼吸器内科、脳神経内科となり特に高齢者の患者様が多いことから生命を維持する診療科が揃った。

消化器内科については昨年の7月～4名体制になったことで安定した診療になった。循環器内科は今年6月から最新の血管造影機械になった。腎臓内科はシャント手術と入院外来の紹介患者が増加した。脳神経内科は高齢者の患者様が多く社会的な問題を抱えており、例えば地域包括ケア病棟で入院しても退院先をどうするか医療とは別の解決をしなくてはならないことを医師が熱心に取り組んでいる。整形外科は4月～6名体制、10月～7人体制になる。年間700件以上の手術を実施している。外科は5人体制で急性虫垂炎～臍頭十二指腸切除術まで夜間緊急手術にも対応し丁寧な診療を行っている。形成外科は2名体制で大塚部長は大学病院で教授をされており当院で部長として勤務し手術がとても上手で診療がとても丁寧なため、お困りごとがありましたら一度ご来院頂けたらと思います。婦人科の池田先生もがんセンターで長く勤務されており、外来患者数も多く夕方まで診療し大変熱心な医師である。特に悪性疾患を担当しているため、一度ご相談を頂けたらと思う。

意見交換 (◇=外部 ■=内部)

◇ 具合が悪く受診する場合は、何処で聞けば診てもらえるのか。

■ 正面玄関入って左側に患者相談窓口があるので症状を伝えてほしい。電話対応もしており電話交換から外来看護師へ電話が繋がるので症状を伝えほしい。夜間では看護師長がトリアージをしている。

(4) 閉会挨拶 山本院長

診療科の説明時に急性期はもちろん港区でも今後人口が頭打ちなり高齢者の割合が増える。それに向けて病院が対応しなくてはならない。今後もよろしくお願いします。本日はお集まりいただきましてありがとうございました。

○次回開催日時について

・ 次回は令和8年2月26日 木曜日 16:00 開催を予定